

強者の戦略

2018年度 東大地理 第3問〔解答解説編〕

いかがでしたか？なかなか手強かったですね。
久々の語群の問題あり、新傾向の会話文形式の問題あり、とバラエティに富んでいて面白かったと思います。では、解答解説を始めていきます。

【解答】

設問A

- (1) A－沖縄県 B－東京都 C－埼玉県
D－福岡県
- (2) 両県とも大都市圏に距離的に近接するが、山がちな盆地地形や半島で移動時間がかかるため、通勤に便利な地域に人口が流出した。(59字)
- (3) 三大都市圏付近や都市規模の大きな広域中心都市、高速交通網が発達し工業化した地域では若年層が流入し減少率が小さいが、過疎化の進んだ農村地域では若年層が流出し減少率が大きくなる。(87字)

設問B

- (1) 鹿児島一丘陵地の麓から沿岸の沖積平野、埋立地へと拡大した。(25字)
広島－三角州の河川の間から北方、南方の沖積平野に拡大した。(26字)
金沢－山麓の台地上から放射状に拡大し、一部は砂丘上まで達した。(28字)
- (2) 山岳の拡大地域では集中豪雨による土石流や斜面崩壊、沿岸の拡大地域では地震による液状化現象の自然災害のリスクが増大する。(59字)

設問C

- (1) 中心業務地区が広がる都心では地価が高く、オフィスビルや繁華街、買い回り品を扱うデパートなどが立地し、通勤に便利な郊外では生鮮食品などの最寄り品を扱う店舗が住宅地の近くに立地する。(89字)
- (2) 高齢化や若年層の流出により最寄りの小売店が撤退したため、また郊外に大型店舗が進出し徒歩での買い物行動が難化したため。(58字)

【解説】

設問A

- (1) 90～95年で人口増減率がマイナスとなり、95年以降プラスに転じているB(■)は、**都心回帰**現象で有名な東京都と判断できます。2010～15年で最も高い人口増減率を示しているA(●)は、**自然増加率が高い沖縄県**と判断できます。1985～90年に最も人口増減率が高かったC(▲)は、ドーナツ化現象によって人口が流入し、社会増加を示していた埼玉県と判断できます。残ったD(◆)が福岡県と判断できます。センター試験レベルの問題でしたね。ここでの失点は御法度ですよ。
- (2)(3) いくつかの小問にまたがる語群の問題では、それぞれの小問に最適な用語が設定されていることがあります。そのため、(2)だけでなく(3)も視野に入れながら、どの用語を(2)に使うか(3)に使うかを思案することが先決でしょう。実は(3)に使う用語を判断の方が簡単です。

(3)では下の表で示したように、人口減少率の大小で比較されている地域をまずは把握します。

	人口減少率	
	小	大
全国	三大都市圏付近	北東北・四国
地方ブロック	宮城・石川 岡山・広島	青森・秋田など 島根・山口

全国を考えると、三大都市圏付近は様々な産業が発達しているが故に**若年層が流入し社会増加率が高く、結婚・出産にも繋がって自然増加率も高くなる傾向**があります。この段階で、「都市規模が大きいと産業が発達しやすい」と見えそうな感じがします。次に、地方ブロックを考えると、宮城県の仙台市、広島県の広島市は**広域中心都市**、石川県の金沢市は準広域中心都市となっています。「広域中心都市があるため産業が発達しやすい」と見えそうな感じがします。岡山県・広島県は高

強者の戦略

速道路や新幹線が整備され、倉敷市の水島コンビナートでは重工業も発達しています。この点で、工業化と高速交通を使えそうな気がします。

人口減少率が大きい地域は、産業があまり発達しておらず、農村地域で若年層が流出し、過疎化してしまったと考えられます。いま、述べてきた時点で、「過疎化、広域中心、工業化、高速交通、都市規模、農村」の6つの用語を使う可能性が出てきました。すべて使う必要はないと思いますが、頑張れば使うことは可能でしょう。

「三大都市圏付近や都市規模の大きな広域中心都市、高速交通網が発達し工業化した地域では若年層が流入し減少率が小さいが、過疎化の進んだ農村地域では若年層が流出し減少率が大きくなる。」で良いでしょう。

では(2)の用語を考えていきましょう。「移動、距離、地形、半島」の4つをすべて使えたら使う方針です。「距離」はどう使いましょう。遠いと書くか近いと書くかの2通りです。ここで本筋を外すと痛いですね。(3)のリード文にヒントがあります。「北関東などの三大都市圏に近い県」、「北東北や四国などの遠い県」とあります。この部分から、山梨県と和歌山県は大都市圏に近いと判断すべきです。だとしたら不自然ですね。大都市圏に近いのであれば、普通にそこに住んで通勤すればいいだけの話です。ここで、地形や半島辺りが絡んできます。周りを盆地で囲まれた地形である山梨県や、険峻な紀伊山地(半島)を持つ和歌山県は、大都市圏との時間距離が大きく、移動に不便を抱えます。なので、それらの制約を脱するため、人口が通勤に便利な地域に流出したと考えられます。

「両県とも大都市圏に距離的に近接するが、山がちな盆地地形や半島で移動時間がかかるため、通勤に便利な地域に人口が流出した。」で良いでしょう。

語群から用語を自由に選ぶ問題は、全部の小問

に目を通すことがポイントです。

設問B

- (1) この問題は相当難しいと思います。鹿児島、広島、金沢に住んでいない限り、詳しいことはあまり分らないと思います。二次試験やセンター試験の過去問を多く解いていれば、該当地域の地形図を見る機会に恵まれたかもしれません。いくつか例を挙げておきます。

【2014年度 センター試験 地理B 追試】

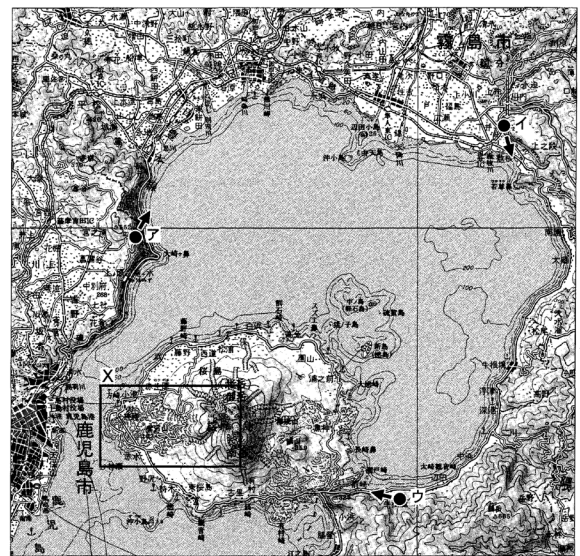


図 1

この鹿児島市の地形図の描く範囲では、今回の東大の問題に対応するのは難しいです。

【2008年度 センター試験 地理B 本試】

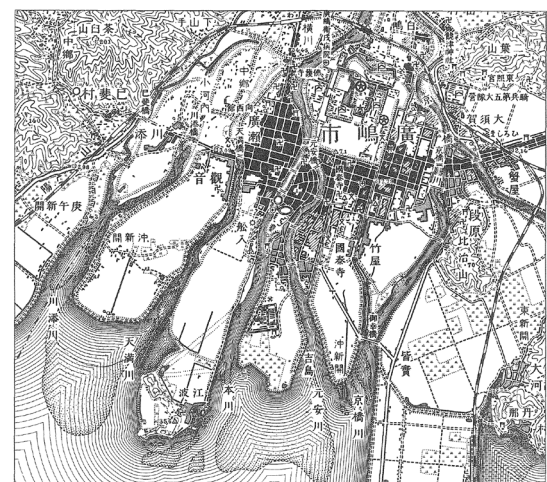


図 1

強者の戦略

この地形図からは、**広島城が三角州に位置していること、付近を河川に囲まれて防御力が高かったことが分かります。**沿岸には**干潟**が広がっていることも地図記号からも分かります。

【2013 年度 センター試験 地理B 追試】

問2 次の図2から読み取れる自然環境の特徴について述べた下の文章中の空欄**力**と**キ**に当てはまる語の正しい組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 31

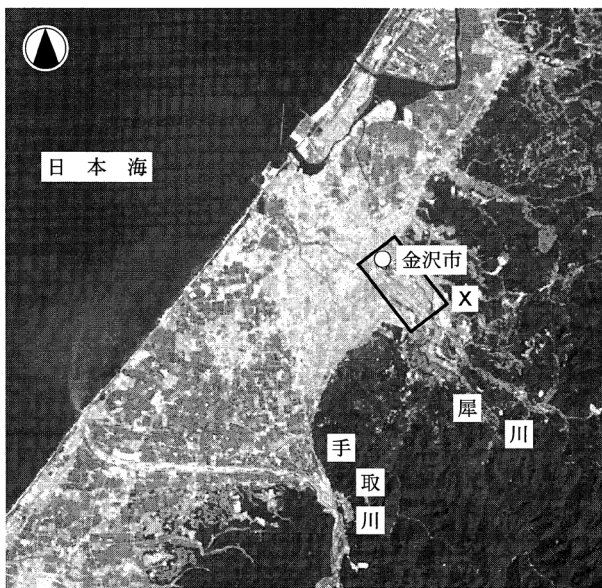


図 2

金沢市の北部には(**力**)がみられ、現在は干拓がすすんでいる。手取川流域には扇状地が形成されており、河口付近には(**キ**)方向に流れる沿岸流がみられ、その影響により平滑な海岸線が発達している。

	①	②	③	④
力	潟湖(ラグーン)	潟湖(ラグーン)	三日月湖	三日月湖
キ	北 東	南 西	北 東	南 西

力には潟湖(ラグーン)が、**キ**には北東が入ります。「手取川流域には扇状地が形成されており」と書かれてありますが、犀川には書かれてありません。「犀川の扇状地」という表現は避けた方が良さそうです。「平滑な海岸線が発達している」

から、沿岸地域に**海岸砂丘**が形成されていることも分かります。

というわけで、センター試験の過去問を解いていれば、ある程度、この東大の問題にも対応できるようになっていたことが分かります。漫然と問題を解くのではなく、どの問題においても、知らない知識を頭にインプットするようにしてくださいね。

さて、問題を解いていきましょう。今まで勝ち得てきた知識と図の読み取りによって、できるだけ点数を取りにいきます。

鹿児島市の城下町の位置は丘陵地の麓に立地しているように見えます。これには防御的な意味合いがあります。次に、沿岸に沿って南側に、また西部山岳地帯の谷間にも広がっていきました。特に南の方は直線的な海岸線となっているため、埋立地が形成されたと思われます。よって、丘陵地の麓から沖積平野を中心に広がり、埋立地にも拡大したと考えられます。

広島市の城下町の位置は三角州の河川に挟まれた場所に立地しているように見えます。その後、沿岸地域の南方と山岳地域の北方の沖積平野を中心に広がり、干潟を埋め立てた沿岸地域にも拡大したと考えられます。

金沢市の城下町の位置は山麓付近の台地上に立地しており、河川に沿って放射状に拡大し、一部は海岸砂丘にまで拡大したと考えられます。

(2) 素晴らしい問題だと思います。都市域が拡大するとどういった自然災害のリスクが上がるかを考える問題です。鹿児島にしる、広島にしる、**山岳地域と沿岸地域の両方に都市域が広がっている**ので、両地域での自然災害を考えれば良いでしょう。山地斜面などを開発して住宅地に変えれば、たまに発生する集中豪雨の際の土石流や斜面崩壊(深層崩壊)で被害を受けることになります。また、沿岸地域への拡大は、熱帯低気圧の来襲による高

強者の戦略

潮の被害、地震時の津波や液状化現象の被害を受けることになります。ただ、集中豪雨と熱帯低気圧で述べてしまうと、両方とも降水量が原因となっていて、視野が狭い感じがします。かといって、地震の津波にすれば、広島市は瀬戸内海に立地していて、あまり影響を受けないと考えられるので、液状化現象で書くのが最適かなと思います。

設問C

(1) 会話形式の問題は新しいですね。これからの入試問題はこういう形式の問題が増えていくと思います。形は変わっていったとしても、問われている本質は今までと変わらないので、身構えずに解いていけばいいと思います。ただ、**文章の内容には注意を払いましょう**。問題文にも「内容をふまえて」と書いてあるのでね。

大都市の土地利用に関する表現をまとめます。「都心のターミナル駅や繁華街」、「家賃が高くてなかなか住めない」、「都心はデパートや専門店、劇場なども多くあって」あたりが都心に絡んでいます。家賃が高い→地価が高い、というつながりで書けるでしょう。中心業務地区に関しては、デパート、繁華街などのショッピング系の用語が並んでいます、ビジネス街的な用語も入れた方が良いでしょう。

郊外の生活圏に関する表現をまとめます。「通勤や通学に便利ですかね?」、「郊外に住むということ」、「家の近くにスーパーマーケットや食料品店があると便利」あたりが郊外に絡んでいます。生鮮食品は郊外で使っていく用語になります。

大都市と郊外の比較が表れている部分は、「都心のデパートに行ってる買い物と、近所のスーパーでする買い物は違うもの」というところです。高価な製品は**買い回り品**、日用品は**最寄り品**と呼ばれるので、この関係性を踏まえて書く必要があります。上記を踏まえて解答を作成すると、「中心業務地区が広がる都心では地価が高く、オフィスビルや繁華街、買い回り品を扱うデパートな

どが立地し、通勤に便利な郊外では生鮮食品などの最寄り品を扱う店舗が住宅地の近くに立地する。」となります。

(2) 頻出問題だと思います。問題文中に「日用品」とあるので、郊外の問題であると判断できます。近年の郊外で買い物行動が難しくなっている現状を把握できていますか？大都市の郊外に発達したニュータウン地域では、**住人の高齢化と子供世代の流出により、購買力が落ちてきています**。収益が上がりなくなった商店などはこの事情を背景に撤退する流れが生まれています。また、**郊外では大きな幹線道路沿いに、車で来られるように駐車場を備えた大型店が増加しています**。このことは、車に乗ることが難しくなった**交通弱者**の高齢者にとって、買い物行動の困難化につながっています。

こういった現状は把握しやすいと思いますが、2行で書き上げるのが難しいです。「高齢化や若年層の流出により最寄りの小売店が撤退したため、また郊外に大型店舗が進出し徒歩での買い物行動が難化したため。」のようにまとめました。

今年度の地理の原稿はこれで終了です。お疲れ様でした！